



「生涯活躍のまち」第2回事例紹介セミナー

日時

令和6年6月24日(月) 14:00~15:30

Zoom会議

主催：内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局



セミナーの内容

概要

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」づくりに係る取組の共有のため、**(一社)生涯活躍のまち推進協議会様** 及び **(株)たぬきち商事様** から取組事例について発表していただきました。

事例紹介 1

輪島KABULET（生涯活躍のまちと震災）

～なぜ輪島KABULETはいち早く日常を取り戻したのか～

一般社団法人 生涯活躍のまち推進協議会



取組の全体像

- 石川県輪島市で、かつての賑わいを取り戻すために、2015年12月に社会福祉法人佛子園、公益社団法人青年海外協力協会（JOCA）によるジョイントベンチャー「輪島KABULET®」がスタート。
- まちなかに残る空き家を改修し、コミュニティ再生の中核を担う交流施設として整備した。地区の住民であれば無料で利用できる温泉や食事処、集会室もあり、**さまざまな人の交流場所**となっている。（**ごちやまぜのまちづくり**）

生涯活躍のまちと震災

- 輪島市と能登町にある拠点へ人的・物的支援を速やかに実施するとともに、**災害関連死をどう防ぐか**を考え、避難所運営と仮設住宅の早期整備を進めるためにJOCA職員を派遣。
- 福祉避難所の開設や、温泉の提供、食糧支援を行う中で、調理や片付けなどの作業は**避難者も主体的に行ってもらえるよう**心がけた。
- 震災後、様子を見に行くべき人物などを気づくことができ、**震災前から進めていた「生涯活躍のまち」の取組で構築した地域コミュニティがセーフティーネットとなった**と実感した。
- **災害関連死を防ぐ** ⇨ **生涯活躍のまちづくり**



事例紹介 2

たぬきち商会「屋根のない長屋」

株式会社 たぬきち商事



取組の全体像

- 高齢化、担い手不足が深刻化するなかで、地域包括ケアシステムもボランティア頼みとなっており広がりが見られない。
- ささいなことから大きなことまで、**内容に応じて適切な対価でお願いできるところが地域内にあることが重要**。このため、「エリア版 生涯活躍のまち・会員制地域コミュニティ運営」により、担い手不足を解消するとともに、孤立や介護離職を予防し、健康寿命を延ばす。

屋根のない長屋

- 「屋根のない長屋」では、中学校区を基本として、**今暮らしている住まいやエリアのまま、様々なサービスを受けることができる**とともに、**自ら誰かの役に立つ活動等**をすることができる。
- 各種サービスや活動については、たぬきち商会が発行する地域通貨のhappaを現金以外にも活用しながら、選択肢のある**報酬を設けることで行政だけでは手の届かない部分を支え合う仕組み**としており、困った時に心置きなく頼れる地域づくりを目指す。
- また、目的もなく、ふらっと寄れる「第二の実家づくり」や地区のイベントへの参加により、地域住民の居場所と顔の見える関係づくりを創出している。



事例 1 輪島KABULET（生涯活躍のまちと震災）

Q 既存の建物をリノベーションするにあたり、耐震耐火の改修は行っているのか？

A 当時、耐震補強は徹底的に行った。費用はかかったが、今回の震災でも倒壊せず今も稼働できている。

Q 旅行者だけでなく、地域で働く外国人対象の拠点や仕組みがあれば教えてほしい。

A 能登町ではインドネシアから研修で来日している人たちがイカ釣り漁船に来たりしている。彼らも自主的に支援する側に回ってくれたが、外国人の受け入れは急務だと考えている。

事例 2 たぬきち商会「屋根のない長屋」

Q 事業を進めるうえで自治体との連携はどのように行っているのか。

A まずは自治体の課題をヒアリングしながら、対象エリアや事業を絞り込んでいき、まちづくりを進めていく形になる。

Q 取組の対象地域の広がりはどのように考えているか。

A 特にここからというのではない。やれるところはどんどん進めていきたいと考えている。その地域で取り組まれた方と理念を共有して仲間になって進めたい。

参加者の声

今回の事例紹介セミナーには、**32の団体や個人の方**にご参加いただきました！

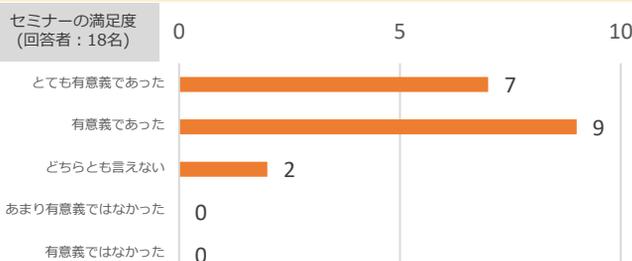
参加者の声

地域で活動するにあたり重要かつ喫緊のテーマでありました。

地域性や人口規模が違えども、地域の方々による活動・活躍されている成功事例が伺えた。

どの地方であっても共通に抱えているであろう社会課題に対して、**住民とのコンタクトを十分に行いながら取り組んでいる民間事業者の例**として、非常に勉強になった。

生涯活躍のまちの取組事例について様々な話を伺う機会があったが、実際にそれが**震災復興・防災の観点にも役立っている**のお話は、非常に新鮮で勉強になった。



それぞれの講演についても、**9割以上が「有意義であった」と**の回答でした。

お問合せ先

「生涯活躍のまち」分科会について

内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局 中村・藤村

☎ 03-6257-1414

✉ JPccrc@cas.go.jp

「生涯活躍のまち」のイメージや取組事例等については、次のURLからご確認ください

<https://www.chisou.go.jp/sousei/about/ccrc/index.html>

